

## 読売新聞 きょう（10月15日）のイチ押し

### 1面など 尖閣 中国が挑発再開

尖閣諸島沖の領海に中国公船2隻が侵入し、57時間にわたってとどまりました。2012年の同島国有化以降、最長です。菅内閣が発足した先月の領海侵入はなく、政府は、中国が再び挑発行為を活発化させることを警戒しています。

- ★ 中国公船2隻は日本漁船を追うように領海に入り、海保の巡視船を無視して、無線で中国の領有権を主張して漁船を追いかけ回しました。
- ★ 尖閣諸島周辺では、中国公船の航行が常態化しており、今年の接続水域の航行日数は264日に達し、昨年を上回るペースです。

### 1社 「虐待なかった」児相の乳児保護検証へ

虐待の疑いで児童相談所に一時保護され、1年3か月にわたって両親から隔離された乳児について、明石市は「虐待はなかった」と認め、第三者委を設置して児相の対応を検証する方針を決めました。独材です。

- ★ 児相は医師の意見を理由に一時保護に踏み切りましたが、家裁は「虐待は認められない」と判断し、高裁も児相の抗告を棄却しました。
- ★ 両親は子どもとの面会もままならず、「かけがえのない時間を奪われ苦しかった」と語っています。
- ★ 明石市長が両親に面会して謝罪、11月に第三者委を設置して、保護が長期にわたった経緯などを検証する見通しです。

#### 他紙と比べて

くらし面で毎日掲載している「人生案内」は読売新聞の人気コーナーです。大正時代に「身の上相談」として始まり、現在のタイトルになってからも70年以上続いています。菅首相も愛読しているそうです。相談の回答者は、作家、学者、医師、弁護士ら多彩なメンバーで、本日は大学学長の出口治明さん。50代女性の「国家資格挑戦 反対され悩む」という相談に答えています。